



安全データシート
ITW RELEASE AGENT

項目1：化学品及び会社情報

1.1. 製品特定名

製品名 ITW RELEASE AGENT

製品番号 Y0064

1.2. 化学品の推奨用途及び使用上の制限

特定された用途 離型剤。

1.3. 安全データシートの供給者の詳細

供給者

ITW Performance Polymers
Bay 150
Shannon Industrial Estate
Co. Clare
Ireland
V14 DF82
353(61)771500
353(61)471285
mail@itwpp.com

1.4. 緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 +44(0)1235 239 670 (24h)

項目2：危険有害性の要約

2.1. 化学物質又は混合物の区別

物理化学的危険性	エアゾール 区分1 - H222、H229
健康有害性	眼に対する重篤な刺激性 区分2 - H319
環境有害性	区分外

2.2. ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H222 極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。
H229 高压容器：熱すると破裂のおそれ。
H319 強い眼刺激。

ITW RELEASE AGENT

注意書き

P210 熱 / 火花 / 裸火 / 高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
 P264 取扱後は汚染された皮膚をよく洗うこと。
 P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。
 P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断 / 手当てを受けること。
 P410+P412 日光から遮断すること。50°C/122°F以上以上の温度にばく露しないこと。

2.3. 他の危険有害性

この製品はPBTまたはvPvBに分類される物質を一切含まない。

項目3：組成及び成分情報

3.2. 混合物

ACETONE CAS番号: 67-64-1	10-30%
分類 引火性液体 区分2 - H225 眼に対する重篤な刺激性 区分2 - H319 特定標的臓器毒性 (STOT)、単回ばく露区分3 - H336	
プロパン - 2 - オール CAS番号: 67-63-0	5-10%
分類 引火性液体 区分2 - H225 眼に対する重篤な刺激性 区分2 - H319 特定標的臓器毒性 (STOT)、単回ばく露区分3 - H336	

全ての危険有害性情報の全文は項目16に示されている。

項目4：応急措置

4.1. 応急措置の説明

一般情報	Show this safety data sheet to the doctor in attendance
吸入	スプレー/ミストを吸入した場合には、以下の通りに処置すること。被災者を空気の新鮮な場所に移して暖かく保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させること。何らかの不快感が続く場合には医師の手当てを受けること。
経口摂取	無理に吐かせないこと。多量の水を飲ませること。医師の手当てを受けること。
皮膚接触	直ちに汚染された衣類を取り除き皮膚を石鹸と水で洗うこと。洗った後も刺激が続く場合には医師の手当てを受けること。
眼接触	コンタクトレンズがあれば取り外し顔を大きく広げること。少なくとも15分間洗い続けた後に医師の手当てを受けること。洗った後も刺激が続く場合には医師の手当てを受けること。

4.2. 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

一般情報	記載されている症状の重症度は濃度および暴露の長さに依存して変化する。
吸入	呼吸器系刺激を引き起こすおそれがある。咳、胸苦しさ、胸部圧迫感。眠気又はめまいのおそれ。
皮膚接触	刺激を引き起こすおそれがある。

ITW RELEASE AGENT

眼接触 激しい刺激、火傷、流涙および視力障害。

4.3. 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

医師に対する特別な注意事項 特定の推奨事項はない。懸念がある場合には、直ちに医師の手当てを受けること。

項目5：火災時の措置

5.1. 消火剤

適切な消火剤 耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素または粉末消火剤で消火すること。火災に近い容器は移動するか水で冷却しなければならない。

使ってはならない消火剤 水。

5.2. 化学品から生じる特定の危険有害性

特有の危険有害性 極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。加熱した場合または炎もしくは火花に暴露した場合に爆発するおそれがある。高圧容器：熱すると破裂のおそれ。破裂したエアゾール容器が火災現場から高速で飛び出してくるおそれがある。

有害燃焼副産物 毒性のガスまたは蒸気。二酸化炭素 (CO₂)。一酸化炭素 (CO)。

5.3. 消火を行う者の保護

消火活動中の保護措置 火災ガスまたは蒸気の吸入を避けること。風上に向かいヒュームを避ける。水スプレーを使用して熱にさらされた容器を冷却すると共にリスクを伴わずに対処可能ならそれらの容器を火災区域から移動させること。

消火を行う者を保護するための特別な保護具 陽圧自給式呼吸器 (SCBA) および適切な保護衣を着用すること。

項目6：漏出時の措置

6.1. 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

人体に対する注意事項 流出の近くでは喫煙、火花またはその他の着火源は厳禁。噴霧ミストの吸入、ならびに皮膚及び目への接触を避ける。この安全データシートのセクション8に記載の防護衣を着用すること。適切に換気すること。

6.2. 環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 排水管または水路あるいは地表へ放出しないこと。水路への流出または制御不能の放出は直ちに環境省またはその他の管轄規制組織に報告しなければならない。

6.3. 封じ込め及び浄化の方法及び機材

浄化方法 砂またはその他の不活性吸収剤で流出物を吸収すること。回収し適切な廃棄物用容器に入れて確実に密封すること。回収した流出物を入れた容器には必ず正確な内容物と危険有害性シンボルを標示しなければならない。安全に対処できるならば漏洩を止めること。安全に対処できるなら着火源を除去すること。流出の近くでは喫煙、火花またはその他の着火源は厳禁。

6.4. 他の項目の参照

他の項目の参照 この安全データシートのセクション8に記載の防護衣を着用すること。

項目7：取扱い及び保管上の注意

7.1. 安全な取扱いのための予防措置

使用上の予防措置 適切に換気すること。容器の取扱いおよび開封の際は注意する。蒸気およびスプレー/ミストの吸入を避けること。発火源から離して保管する - 禁煙。静電気および火花の発生を防止しなければならない。製品使用中は、飲食及び喫煙してはならない。優良個人衛生手順を実行しなければならない。使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。容器を接地すること / アースをとること。

ITW RELEASE AGENT

7.2. 混蝕禁止物質を含む、安全な保管条件

保管上の予防措置 密閉した、元の容器に入れて乾燥した、涼しくて換気の良い場所に保管すること。発火源から離して保管する - 禁煙。混蝕危険物質（セクション10を参照）から遠ざけて保管すること。

7.3. 特定最終用途

特定最終用途 この製品の意図された使用はセクション1で詳しく述べられている。

項目8：ばく露防止及び保護措置

成分に関する注釈 WEL = Workplace Exposure Limits

8.2. ばく露防止

保護具



適切な設備対策 適切な全体換気装置および局所排気装置を設けること。製品または成分の職業暴露限界値がある場合にはこれを遵守すること。

眼 / 顔面の保護

リスク評価により眼に接触する可能性が指摘された場合には適切な規格に適合した保護眼鏡を着用しなければならない。リスク評価によりより高度な保護の必要性が指摘された場合を除き、以下の保護具を着用しなければならない：顔面に密着する安全眼鏡。眼および顔面に適切に保護する個人用保護具を着用しなければならない。

手の保護

次の材料で作られた保護手袋を着用すること：ゴムまたはプラスチック。手を化学物質から保護するために、化学物質に対する不浸透性および分解耐性が証明されている手袋を着用しなければならない。選択される手袋は少なくとも8時間の破過時間を有していなければならない。

その他の皮膚及び身体の保護 化学品防護服を着用すること。

衛生措置

洗眼ステーションおよび安全シャワーを設けること。優良個人衛生手順を実行しなければならない。仕事を離れる前に手と他の汚染された身体の部位を石鹸と水で洗うこと。

呼吸器の保護

換気が不十分な場合には、適切な呼吸用保護具を必ず着用すること。呼吸マスクの選択は必ず暴露レベル、製品の危険有害性および選択した呼吸マスクの安全作業限界に基づいて行わなければならない。呼吸マスクが顔面に密着することおよびフィルタが定期的に交換されていることを点検すること。次のカートリッジを装着した呼吸マスクを着用すること：ガスフィルタ、タイプA2。意図した使用に適した交換可能な吸収缶を装備したハーフマスク式およびクォータマスク式の呼吸用保護具を使用しなければならない。

項目9：物理的及び化学的性質

9.1. 物理的及び化学的性質に関する情報

外観	エアゾール。
色	白色。
臭い	甘い臭い。エーテル。
融点	<-130°C
初留点及び沸騰範囲	-25°C @
引火点	-100°C
蒸発速度	Fast

ITW RELEASE AGENT

燃焼又は爆発範囲の上限・下限 燃焼/爆発下限界: 1.8 燃焼/爆発上限界: 9.4

蒸気圧	>210 @ °C
蒸気密度	1.91
相対密度	<1 @ 20 °C
溶解度	水可溶性。
自己発火温度	>200°C
粘度	Non- viscous @ °C
その他の情報	データ無し。

項目10: 安定性及び反応性

反応性	酸。強酸化剤。強還元剤。
安定性	標準周囲温度および推奨条件で使用した場合は安定。
危険有害性反応危険性	データ無し。
避けるべき条件	熱、火花およびその他の着火源を避けること。熱を避けること。長時間にわたる過剰な熱を避けること。
混触危険物質	強酸化剤。強還元剤。酸との接触を避けること。アルカリ - 無機。アルカリ - 有機。
危険有害な分解生成物	火災または高温は以下を生成する: 窒素ガス (NOx)。次の物質の酸化物: 一酸化炭素 (CO)。二酸化炭素 (CO2)。以下の蒸気/ガス/ヒューム: アンモニアまたはアミン。以下の毒性ガス/蒸気/ヒューム: フッ化水素 (HF)。

項目11: 有害性情報

11.1. 有害性情報

吸入	吸入すると有害である。蒸気は嗜眠状態およびめまいをおこすことがある。
眼接触	激しい刺激、火傷、流涙および視力障害。
急性及び慢性健康危険	長期にわたる長時間暴露および反復暴露は永久的な健康問題を招くおそれがある。高濃度の蒸気に長期にわたりまたは反復して暴露すると次の悪影響を引き起こすおそれがある: 吐き気、嘔吐。頭痛。

項目12: 環境影響情報

生態毒性	Avoid release to the environment.
毒性	魚に対する毒性は考えられない。
12.2. 残留性・分解性	
残留性・分解性	製品は中程度に生物分解性である。
12.3. 生体蓄積性	
生体蓄積性	製品は生体蓄積性でない。
12.4. 土壌中の移動性	

ITW RELEASE AGENT

移動性 製品は水に溶解する。製品は大気中に広がるおそれのある揮発性物質を含む。

12.6. 他の有害影響

他の有害影響 データ無し。

項目13：廃棄上の注意**13.1. 廃棄上の注意**

一般情報 廃棄物を取り扱う際には、製品の取り扱いに適用される安全措置を考慮しなければならない。
。
廃棄方法 現地の廃棄物管理当局の規定に従い認可された廃棄物廃棄物投棄地点に廃棄物を廃棄すること。
廃棄物クラス 16 05 05

項目14：輸送上の注意**14.1. 国連番号**

国連番号 (道路輸送/鉄道輸送) 1950

国連番号 (IMDG) 1950

国連番号 (ICAO) 1950

14.2. 品名 (国連輸送名)

品名 (国連輸送名) (道路輸送/鉄道輸送) AEROSOLS

品名 (国連輸送名) (IMDG) AEROSOLS

品名 (国連輸送名) (ICAO) AEROSOLS

14.3. 国連分類 (輸送における危険有害性クラス)

道路輸送/鉄道輸送クラス 2.1

道路輸送/鉄道輸送ラベル 2.1

IMDGクラス 2.1

ICAOクラス / 区分 2.1

輸送ラベル

**14.4. 容器等級**

該当しない。

14.5. 海洋汚染物質

環境有害物質 / 海洋汚染物質
該当せず。

14.6. 使用者のための特別予防措置

非常措置指針 (EmS) F-D, S-U

ITW RELEASE AGENT

項目15 : 適用法令

項目16 : その他の情報

改訂に関する注釈	配合の変更。備考：余白中の線は以前の版からの重大な変更を示している。
改訂日付	2018/04/26
改訂版	11
破棄日付	2017/05/08
危険有害性情報の全文	H222 極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。 H225 引火性の高い液体及び蒸気。 H229 高压容器：熱すると破裂のおそれ。 H319 強い眼刺激。 H336 眠気又はめまいのおそれ。

この情報は明示されている特定の物質のみに関連するものでありこの物質を他の何らかの物質と併用したり何らかのプロセスに使用した場合には有効でない場合があります。上記の情報は、弊社の知識および確信のおよぶ限り、標示されている日付の時点において正確かつ信頼性の高い情報です。しかしながら、その精度、信頼性または完全性に関して一切の保証、補償あるいは表明を行うものではありません。各自の特定用途に対する上記情報の適合性に関して確認を行うことは使用者の責務です。